

●采賀祝辞●

秋田県立能代高校同窓会会長

神馬恒成氏 旧制九期



本日は東京同窓会の総会にお招き頂き、みなさまにご挨拶の機会を与えてくださいましたことをまず、厚く御礼申し上げます。

私は、能代高校にとつて今年、近年にない輝かしい年であったと思います。先ほど来、会長さん、事務局長さんからのご報告がございましたが、まず、四月の参議院選挙におきまして、われらがホープ佐々木満先生が圧勝いたしました。それに続きまして硬式野球部が、久しぶりに甲子園出場の偉業を成し遂げましたし、また引き続き、軟式野球部が全国大会に駒を進めるという成果を収めました。それに先ほどご講演を頂きました鈴木選手の自転車競技におけるオリンピック出場と、能代高校に稀にみる実績を記した年でございました。この実績は、ひとえにみなさま方の常日頃の能代高校に対するご叱正、ご協力の賜と深く敬意を表し、心から御礼申し上げる次第であります。

甲子園出場につきましては、九千万円の目標を立ててみなさまに募金をお願いしましたところ、現在までに推計いたしました結果、一億一千四百円にのりかしの額が集まりました。まだ、きちんとした結果はでておりませんが、今までのご協力の結果はでていると、三千万から四千万ぐらいの残額がでるのではないかと推定

されます。その残額につきましては、これから関係者にいろいろご検討頂くわけですが、幸い今年には能代二中野球部が全国大会に出場いたしました。これに期待をいたしますと、3年後の能代高校七十周年には、またもや甲子園出場を果たしてくれるのではないかと、おおいなる期待を寄せておる次第でございます。

学校の細かい状況は、校長先生からご報告頂くことにいたしました。みなさま方の常日頃のご協力・ご叱正に対する御礼と同時に、東京同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして、簡単ではございますが、私のご挨拶にかえる次第でございます。どうもありがとうございます。

秋田県立能代高等学校校長

椎名光雄先生



まず最初に、能代高校東京同窓会がかくも盛大に開催できましたことを、心からお祝い申し上げます。また、この東京同窓会の発展充実のために、前会長さん、現会長の小林さんをはじめ事務局ほか幹事のみなさんが、さぞ大変なご難儀をいたしておられることと思われまふ。心から敬意を表しお礼を申し上げます。

私からは学校の状況など二、三ご報告させて頂きたいと思いますが、詳しいことはお手元に学校の状況を資料としてまとめたものを、配布させて頂きましたので、機会がございましたらみなさまの高校時代あるいは、旧制中学時代を

重ね合わせながら、お読みください。

能代高校校長就任3年目になりますが、今年ほどうれしく、また能代高校がすばらしい学校であることを痛感したことはございません。同窓生の立派な活躍もございしますが、在校生も本当にすばらしい活躍をしてくださいたいと思います。

それに火をつけてくれたと言いますか、能代高校生もやればできるぞと、身をもって示してくれましたのが、本校出身者として5人目のオリンピック出場を果たされた鈴木裕美子さんでした。加えて神馬会長の春の叙勲、そして佐々木満先生の圧倒的な参議院選が、生徒のさらなる奮起を促した物と思えます。暑い夏とは言いますが、本校にとつては燃えに燃えた夏でございます。

十四年ぶり硬式野球部四回目の甲子園出場、同時に宮崎で全国高校大会がありましたが、それに柔道の女子団体を含め、8名の出場、軟式野球部の6年ぶり十回目の明石球場出場と、本校の歴史上にもない夏の活躍だったと思われまふ。特に硬式野球部は第1回戦、途中これまでも目をつぶる場面もございましたが、最後に本校生徒の持つていた力を十分に出し切って、あの真夏の甲子園に本校の校旗をなびかせ、それを見上げながら生徒八百名と、アルプススタンドそのほかにおられた本校同窓生、計三千数百名による校歌の大合唱を聞くことができました。行った方々はみな声を張り上げて校歌を歌ったと言いますが、私の見たところほとんど歌わずに肩を抱き合せて、ただ涙を流して喜んでくれる人が多かったようでした。いずれにせよ、すばらしい夏だったと思えます。

二回戦、明石大会と応援・報道担当の生徒、延べにして一千二百名を越える生徒が、この夏大阪、明石を訪れたことになるかと思えます。生徒もおそらくこれからの人生で「やればできるのだ」「能代高校はそれだけの力を持つてい

るのだ」ということを、心に深く刻み込んだ夏ではなかったかと思えます。先ほど神馬会長さんのお話にもございましたが、甲子園出場に關しましては、みなさまに大変なご支援を頂きました。この席を借りて厚くお礼を申し上げます。ご寄付に関する額は先ほどのお話の通りでございますが、件数に關しては、最初一万五千件ぐらいで終わるかと思いましたが、3名のアルバイトが盛んにパソコンに入力しておりますが、どうもいつまでたつても入力が終わりません。聞きましたところ、どうやら二万件近い数字であろうという話でございました。近々集計が終わりませんが、いずれにしても大変なご支援を頂きましたこと、この席を借りて重ねて御礼申し上げます。その使途については、硬式・軟式の選手、それを支えてきた生徒、それがあつて始めてできた全国大会出場ですので、これらの生徒に能代高校3年間で生涯の思い出として残るようなものにと考え、職員ともども相談し、生徒主体に使わせて頂く、このような方針で検討しております。詳しいことは後日報告書にまとめ、お届けいたします。

みなさまご承知の通り文武両道を目指す本校でございます。もう一方の文に關しても、この3月の卒業生が、大変すばらしい成績を残してくれました。ここで数字は申し上げませんが、過去にない成績だったと思います。ただ残念なことは、数は相当稼げたのですが、質の面で若干見劣りがあるのでないかといった気がします。幸い非常に優秀な生徒がそろつておりますので、同窓会や父母のみなさまのご期待に沿えるよう、そしてまた質量ともに今年の卒業生を上回るべく、職員ともども日夜努力を重ねておる次第でございます。

次は第3点目です。昨年も若干申し上げたこ

とではございますが、本校も高埴の地に移りまして十六年になります。学校へ入つて行く道路があるのですが、このままではその回りに家ができてしまうということで、神馬会長さんを中心に土地の取得を願つてまいりました。幸い県が購入することになり、四千万の予算で四千百平米の土地を取得しました。そこへ自転車置場とバスのロータリーを新設することになり、その予算として約八千万円、それに父母の会が、七十周年記念の前倒し金として約二千五百万の費用を足し、一億余りの経費をかけて、現在五割方工事が進んでおります。完成しますと、公立高校としてはおそらく全国に前例のない景観を擁する学校になるのではないかと、このように自負しております。いずれにしても、永遠に能代高校がこの高埴の地を離れることはないと思えます。卒業生や先輩が先輩になったとき、「わが母校はここだよ」と自慢できるような学校にしたいと、各方面のご協力を仰ぎ、その方向へ向けて進行しているところでございます。また、建物施設ばかりではなく、あれがわが先輩だよ、と自慢できるような生徒を生む学校造りも考えております。

なお、本日は私以下4名の職員がご招待に預かり、昨年に引き続きまして3月新卒者を激励して頂くことになりました。これによりまして彼らも、今後能代高校同窓生の一員であるという自覚をもつて、東京での生活を充実したものにしていけるであろうと、考えられます。本当にありがとうございます。

以上、簡単ではございますが、学校の近況報告を兼ね、私からのご挨拶とさせていただきます。

## 恩師メッセージ

五十嵐研一先生



ご紹介頂きました五十嵐です。私のような者がご招待を受けていいのかどうか迷いましたが、勇を鼓して出て参りました。

上京するのは、およそ二十年ぶりぐらいです。実は私は宮城県人でございますが、昭和三十年に能代に参りまして以来、能代市内の高校に勤め、昨年3月退職しました。いちばん長くお世話になりましたのは能代高校で、昭和三十年四月から四四年三月までと、五四年四月から退職する平成二年三月までの、前後二十六年もおりました。その中間が北校・工業にお世話になりました。文字通り能代市民になりきつてしまったような形です。事実、今年の夏、甲子園に校歌が流れた時は、なんとも言いようのない感動に、胸が押し詰まりました。

退職後一時は故郷に帰ろうかとも思いましたが、女房は仲間がふえたせいか、どうも帰りたいがらないようです。

私が奉職した当時は、まだ市内の道路の舗装もない状態でしたが、先生というのは非常に大事にされまして、なんと言いますか、まあ、大変いい思いをさせてもらった。それが今日まで私が長く能代に腰を落ち付けた理由ではないかと思っております。

若い時は勉強不足や脱線で、誠に恥ずかしい授業ばかりだったと反省しております。今日は